



田中 雅博 *Masahiro Tanaka*

西明寺住職・(医)普門院診療所内科医師

1946年坂東二十番札所の益子西明寺に生まれる。1970年慈恵医大卒業。1974年国立がんセンター研究所研究員、同病院内科医師を併任。1975年国立がんセンター内分泌治療研究室長。1982年西明寺住職であった父60才が心筋梗塞で死亡したため、翌1983年に国立がんセンターを退職し、大正大学仏教学部3年に編入、7年後の1990年に同大学院博士課程満期退学。同年に西明寺境内に普門院診療所(入院19床)建設。現在西明寺住職、医療法人普門院診療所医師、大正大学非常勤講師。介護老人保健施設看清坊、居宅介護支援事業所金蓮坊、金蓮坊訪問看護ステーション、およびグループホーム能羅坊の運営に携わっている。2002年、2004年および2005年の3度、それぞれ医療施設、緩和ケアおよびヒトゲノムをテーマとしたローマ教皇庁医療司牧国際会議に招待されて仏教の立場を講演した。

医療と宗教

現代医学で治癒不可能な病気の終末期には、延命と苦痛緩和が両立不可能等の問題が生じます。このような問題は科学の範囲ではありません。科学は実験と観測で反証可能なことだけを扱います。非科学の領域では、非常に長い時間をかけて良いものが選ばれ古典となります。古典を研究して如何に生きるかを考えるのが人文学です。医師の専門は医学という科学で人文学ではありません。西洋の病院では、人文学の専門家として、主にキリスト教の僧侶がスピリチュアルケアを担当し、患者と家族のみならず医療従事者の非科学的な苦悩に対応しています。「生と死が手をむすぶには」、病院のグリーフケア・カンファレンスに患者の菩提寺の住職を呼ぶことから始めることも可能だと思います。